

企画展

「発掘された縄文時代-光明院南遺跡-発掘された石棒のなぞに迫る」

光明院南遺跡は荻窪駅の西側にある光明院の周辺に位置し、昭和初期以降、これまで8度の発掘調査を実施。縄文時代の土器や石器、石棒などを中心に多くの資料が出土しており、徐々に遺跡の全体像が明らかになってきました。

今回の展示では、出土資料を展示の上、自然と共生しながら持続可能な社会を実現していた縄文人の姿を、多方面で活躍しているスリアキコさんのイラストを用いて紹介しています。

<柄鏡形（えかがみがた）住居跡>

柄鏡形住居とは円形の住居跡に張出部を設けた住居のことを指し、区内の数ある遺跡群でも光明院南遺跡をはじめとした数カ所でしか発見されていません。

住居跡からは石棒や石皿などが発見され、まつり（祭祀）が行われたことがうかがえます。



▲柄鏡形住居跡（イメージ）

<割れた石棒>

柄鏡形住居の中からは3本の石棒が発見されました。3本の石棒は炉石に転用された石棒、横倒しになった石棒、バラバラに割れた石棒と、同じ住居から出土したにもかかわらず、どれも異なる状態で発見されました。

「割れた石棒」の焼け具合や形状から推察されるまつりの様子を展示の中で紹介しています。

<期間限定イベント>

1月6日（金）には、粘土を使った土器づくり体験（要予約）のほか、縄文土器の模様写し取り体験、どんぐりお絵描き体験などの各種催しを開催します。



▲石棒【区の指定文化財】

発掘された縄文時代 -光明院南遺跡- 発掘された石棒のなぞに迫る

【日時】令和4年11月12日（土）～令和5年1月22日（日）

（会期中休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）、毎月第3木曜日、年末年始（12月28日～1月4日））

【会場】杉並区立郷土博物館分館 西棟2階展示室（天沼3-23-1）

【観覧料】無料

【問い合わせ先】

杉並区立郷土博物館分館：03-5347-9801

生涯学習推進課：03-3312-2111（代表）